<table>
<thead>
<tr>
<th>項目</th>
<th>内容</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td>Title</td>
<td>A・C・リトルトンとその会計思想</td>
</tr>
<tr>
<td>Author(s)</td>
<td>片野 一郎</td>
</tr>
<tr>
<td>Citation</td>
<td>一橋論叢 53(4): 516-535</td>
</tr>
<tr>
<td>Issue Date</td>
<td>1965-04-01</td>
</tr>
<tr>
<td>Type</td>
<td>Departmental Bulletin Paper</td>
</tr>
<tr>
<td>Text Version</td>
<td>publisher</td>
</tr>
<tr>
<td>URL</td>
<td><a href="http://doi.org/10.15057/3007">http://doi.org/10.15057/3007</a></td>
</tr>
</tbody>
</table>
片野一郎

A・C・リトルトンとその会計思想

片野一郎

リトルトン教授の名著「Accounting Evolution in 1889」を、日本語訳『リトルトン・会計発達史』を刊行。1889年に会計の発展を追う新しい方式を提案したリトルトン教授を紹介し、彼の論文内容を読み解く。

一九二二年九月二十日の午後、私は明るく日が三日

ビロードの雲から陣雨を降らしていた

絶えず瞬きをして新鮮な生気を訪れた。ホールでは会議に参加する人びとが三・五々ちらこちらで話しあっていた。この会合はイリノイ大学のギャラリーで開かれる『日本会計教育』に出席として氏名を登録するため同大学の

「会計」の出席者として氏名を登録するため同大学の

で保ある日から三日

いう日がある。実はの黒髪に、気品のある風貌の主さこそ、かねて努力でよく見知っている世界会計学界の巨匠A・C・リトルトンその人であつた。

近づいて行くと、同伴した妻の和服姿から私であることを気づいて懐的を向けられた。初対面であった。リトルトン教授の名著「Accounting Education to 1889」を刊行。1889年に会計の発展を追う新しい方式を提案したリトルトン教授を紹介し、彼の論文内容を読み解く。

一九二二年九月二十日の午後、私は明るく日が三日

ビロードの雲から陣雨を降らしていた

絶えず瞬きをして新鮮な生気を訪れた。ホールでは会議に参加する人びとが三・五々ちらこちらで話しあっていた。この会合はイリノイ大学のギャラリーで開かれる『日本会計教育』に出席として氏名を登録するため同大学の

「会計」の出席者として氏名を登録するため同大学の

で保ある日から三日

いう日がある。実はの黒髪に、気品のある風貌の主さこそ、かねて努力でよく見知っている世界会計学界の巨匠A・C・リトルトンその人であつた。


会計の制度的発展の過程を資本主義社会における財産制の発達との相関関係において考察し、これに基づいて会計の本質づけを行なうとする弁証法的会計史観をもって論じてみよう。 一九三三年出版の「現代経済の基礎」の最後の章「会計の発展」の中でつぎのようになされている。

会計は外部環境との関係において相関的であり、進化的である。会計上のテーマを産みだすところのもう一つの要因は、経済の発展によって現実と驚くべき変化を生じさせるたるためである。従来の方法は、あたらしい方法を創出し得ない。前の方から問題を当面すれば適応性をうけて、あたらしい方法を産みだす。創造の力は、あたらしい思考を産みだす。従来の方法は、あたらしい思考を産みだす。

外的環境に対する会計の相関性は二つの方面において認められる。一つは会計の実用的相関性であり、いかに当面の問題を解決すべき会計の能力にいかかえようか、面の問題を解決すべき会計の能力にいかかえようか、面の問題を解決すべき会計の能力にいかかえようか、面の問題を解決すべき会計の能力にいかかえようか。
A.C. リトルトンとその会計思想

『財務会計変革』（一九二八年・第7章「第二世
界大戦後のアメリカ・インフレーション会計の発展」
明かにしている。

第三の実りとしてあげた一九二八年的「Continuity and Change」とは愛弟子V.K. チューマンの協力においてまとめ上げられた会計思想史とその
開拓的文献であるといわれている。その序文にはこう述べている。「われわれの信ずるところによれば、すべて行為
は或る動機となる力に応じて始動するのである。過去
および現在の会計実務の底にある動機と信念を十
分に理解することとは、会計の将来の発展の途を可能

『A.C. リトルトンとその会計思想』

（135）
A.C. リトルトンとその会計思想
ののではないかです。各研究領域間の相互関係が学生
身をかわるよう、その学生を指導するのでなければ、そ
の学校教育は、本人に、と今後社会生活をいかに上
に、或いは、職業、そしての会計士業務を含む管理的
務に当面従事する上にも、万全の準備を期するにはた
ないであろう。

人は、おのれの興味ある領域で働き、として修業するも
のである。しかし、人が、実際西歴をとった、また仕事を
しているのは、おのれの興味に有する関係のある活動とまっ
たく関係のない活動とが混在に入りまじった领域である。
人が仕事をする環境は、大部分、自分自身の活動に応
じて役立つものである。会計人、その人生の重
要な事実となっているのは、彼が仕事をする環境が現代
の経済生活のなかで活動といなら、経営者の意思決定
によって常時統制されている企業であるということであ
る。大学の商学部では、学生にその勤勉が一方的に偏るお
うに注意を払え、おそらくは、そのように要求していよ
う。商学部には、文学及び科学コース、経済コース、財政
コース、経営コース、法律コース、会計コース、管理

大学商学部における学科の担当教員全員が学生の履修
科目の調整に協力するとしたら、たしかに、教育に貢献
することである。必ずし、と、その教員も自分にある
生が調整について助言を得るには、コースの指

大学商学部における学科の担当教員全員と教育の関係で
生が適応するかのことはできないのである。学
生が適応するかのことは、この関係で、どのように

大学商学部における学科の担当教員全員が学生の履修
科目の調整に協力するなら、たしかに、教育に貢献
することである。必ずし、と、その教員も自分にある
生が調整について助言を得るには、コースの指

問題
この点は、どうして学生にわかりやすく

この点は、もし交換価格取引の実体をよく理解できればならない。学生は、自分の旋回に取引が及ぼす影響についての有利な影響、不利益な影響と相等しい関係にあることを知らなければならぬ。学生は、自分の旋回に取引が及ぼす影響についての有利な影響、不利益な影響と相等しい関係にあることを知らなければならぬ。教育方法を上げるうえで、学生は、自分の旋回に取引が及ぼす影響についての有利な影響、不利益な影響と相等しい関係にあることを知らなければならぬ。
学生が理論を、つまり、取引、勘定および財務表の背後にある様々な目的を早いうちに理解し、じめじめに指針することを学ぶのが大事だということである。

会計には知的アドバイスの物がないわけではない。

「会計の理解を知ることであり、会計の目的を知ることであり、会計の重要性を知ることであり、会計の存在理由を知ることである。」

最後にこういう説がある。「会計理論を教えるに際し、われわれがどこか見落しがちである。会計教師がどこか見落しがちである。あらゆる会計理論は学習を支える必要がある。同時に、会計理論は学習の知的向上を支えるように体系化された会計のコースの過程でその歴史をたどってきた場合に、会計の勉強は学生の知的向上に貢献し、どのようにして新しい会計理論の考え方のやり方で学習の知的向上に貢献できるかを示すことができる。」

それが理論だけではなかなか復遊できないのである。実習も会計教育上必要にして不可欠なものである。同時に、会計の勉強は学生の知的向上に貢献し、どのようにして新しい会計理論の考え方のやり方で学習の知的向上に貢献できるかを示すことができる。
and 3. 1962. 1. 2. i.

Educational Conference on
and Research in Ac.

Conference: Proceedings of International Conference on

For International Education and Research in Ac.

The Center